

令和3年10月7日

水産振興課

令和3年度「遊漁を活用した地域活性化推進事業」のうち

## 久慈川アユ友釣り教室の結果について

## 1. 趣旨

茨城県は全国有数のアユの漁獲量を誇り、釣り人の間でも好釣り場として知られるが、大震災以降アユ遊漁者の数が減少し、地域経済にも影響を与えている。

アユ釣りは、主に「友釣り」と呼ばれる独特の方法で行われ、「技術が難しい」「道具が高い」「きっかけがない」など、始めるのが難しい釣りであることから、久慈川において初心者向けのアユ友釣り教室開催を支援し、遊漁者数の回復を図る。

## 2. 教室運営方法の見直し

当教室は、令和元年度に開催し、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催せず、今年度は2年目の開催となる。来年度以降の運営方法の改善のため、平日開催、参加費の値上げ、インストラクターの配置の見直しを行い、実施した。

## 3. 実施状況

## (1) 事業実施主体

- ・大子町：(一社)大子町振興公社
- ・常陸大宮市：元気な郷づくり(株)
- ※ 双方に対して久慈川漁協が全面的に協力

## (2) 実施日及び場所

- ・大子町 場所：湯の里公園 (参加者は県内在住者限定)

開催日	参加者数	釣果(尾)	備考
7月24日(土)	17	37	
8月4日(水)	11	30	平日開催 申込13人
8月22日(日)	(中止)		申込20人

参加者数 28人 (女性9)

- ・常陸大宮市 場所：道の駅かわプラザ

当初、8月27日(金)、9月4日(土)、9月12日(日)に開催を予定していたところ、新型コロナウイルス感染拡大が長期化したため中止となった。

なお、参加申込は各回とも20人。

(3) 内 容

参加費：3,000 円（令和元年度の 2,000 円から 1,000 円値上げ）

道 具：全て貸与（竿・たも・ベスト・ベルト・タイツ・鮎タビ・アユ舟・  
 匣缶）

インストラクター：参加者 1～2 人に対し、久慈川漁協の組合員を中心  
 としたインストラクター 1 人がついて実釣中心に指導

(4) 教室の状況

- ・参加者は、10 代から 70 代までの男性 19 名及び女性 9 名であり、令和元年度と同様に幅広い年齢層であった。
- ・前日に上流で降った雨による川の濁りなど、条件が悪い中、1 人平均 1～3 尾のアユを釣ることができ、参加者からは好評であった。
- ・アンケートの結果、全員が今後もやってみたいと回答したが、一人ではまだできないとの回答が 8 割だった。
- ・1 回目(7 月 24 日)の教室参加者から、3 回目(8 月 22 日)の教室に再度申込みがあった。

(5) 今後の改善点

- ・平日開催は、8 月 4 日(水)の申込者が定員に達しなかったが、8 月後半の平日は定員に達したので、募集期間を長くする必要がある。
- ・熱心な参加者を確保するため、継続した教室開催の必要があると考えられた。
- ・参加費の値上げについては、参加者からの不満等は聞かれなかった。
- ・インストラクターの割合を下げるため、インストラクター 1 人が参加者 2 人に教えることを行った。参加者が体調不良などの時には周りのインストラクターと連携する等の工夫が必要と考えられた。
- ・参加者の追跡調査は、11 月以降の友釣り終了時期に実施する予定。



# 河川におけるコクチバスの状況について

茨城県水産試験場内水面支場  
内水面資源部 外山 太一郎

## コクチバスとは



- ・北米原産の国外外来種
- ・最大で 50 cm 以上に成長
- ・止水を好むオオクチバスよりも流水に適応
- ・魚食性が強く、アユなどの遊泳魚や、底生魚、甲殻類、昆虫類、両生類など様々な生物を捕食

# コクチバスとは

産卵床と卵を守る雄親



2021.4月 久慈川 (撮影: 外山)

コクチバスの卵巣



- ・ 雄が産卵床を作り、卵や仔魚を守るため繁殖力が高い
- ・ 阿賀野川, 阿武隈川, 那珂川水系などに定着

(藤田, 2019)

## 日本国内におけるコクチバスの分布拡大

**1991年頃** 長野県野尻湖や木崎湖、福島県檜原湖で相次いで生息が確認

その後、急速に分布が拡大

**2001年時点** 37都道府県から採捕記録

(淀, 2002; 淀・井口, 2003; 環境省自然環境局野生生物課編, 2004)



出典: 山梨ハンディ図鑑15 日本の淡水魚

**2005年** 「外来生物法」施行  
無許可の飼養や移動, 放流が禁止

しかし・・・施行後も釣り目的の違法放流により分布が拡大

(藤田, 2019)

近年の確認例: 茨城県久慈川・涸沼川、静岡県天竜川、三重県出雲川

# 茨城県におけるコクチバスの分布拡大

1999年 利根川水系で県内初確認

2006年 那珂川水系で再生産を確認

2017年 久慈川水系で初確認

2019～2020年

涸沼川で繁殖・定着を確認  
(茨城大学の調査チーム)

- ・ 徐々に分布が拡大している
- ・ 特に久慈川水系での初確認は、2005年の  
外来生物法施行より12年も後  
→ 違法な放流があったと考えられる



出典：wikipedia「茨城県の主な河川」

・ 涸沼川におけるコクチバス  
- 茨城大学による調査結果 -

・ 久慈川におけるコクチバス  
- 内水支による分布調査結果 -

## 涸沼川におけるコクチバスの定着

- ・ 関東唯一の汽水湖である涸沼に注ぎ込む最大河川
- ・ 涸沼はラムサール条約登録湿地であり、保全優先度が高い
- ・ 涸沼に生息する絶滅危惧種や水産有用種を含む魚類の中には、流入河川を利用する種が複数含まれる



出典： [https://www.hinuma.ibaraki.jp/sp\\_contents/reports/](https://www.hinuma.ibaraki.jp/sp_contents/reports/)

⇒ 2019年から2020年にかけて、茨城大学の研究チームがコクチバスの生息状況調査を実施

## 涸沼川におけるコクチバスの定着

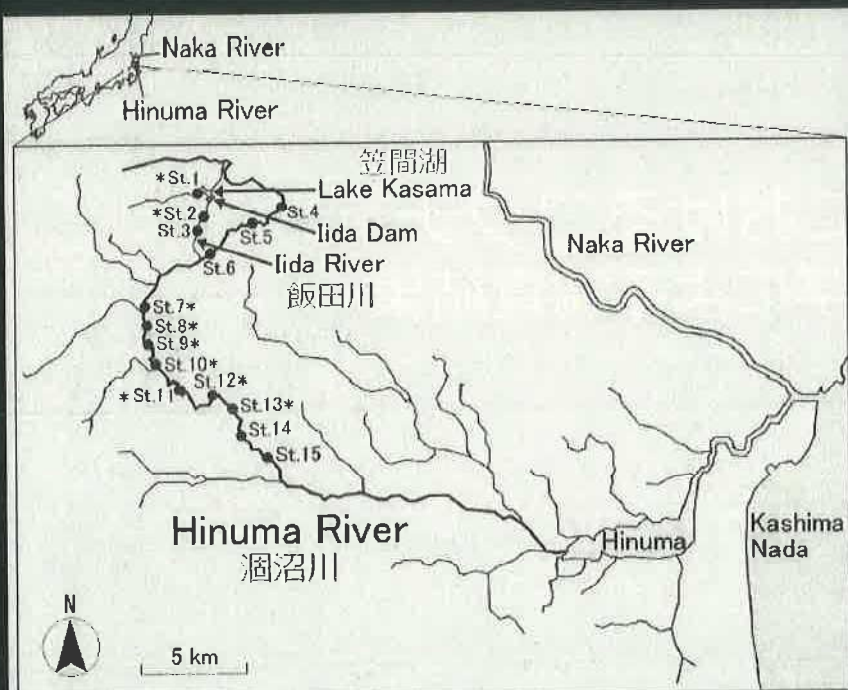


図1. 涸沼川水系の調査地点(●)を示す地図。St. 1, 笠間湖; St. 2, 3, 飯田川; St. 4-15, 涸沼川。\*はコクチバスが確認された地点を示す。

出典：木村ほか（2021）ラムサール条約登録湿地「涸沼」に流入する涸沼川におけるコクチバスの侵入と再生産

- ・ 計7地点で生息を確認  
(笠間湖とその下流の飯田川・涸沼川)
- ・ 仔魚～成魚まで計228個体が採集
- ・ 産卵床と仔魚、それを保護する雄親も採集された

## 涸沼川におけるコクチバスの定着

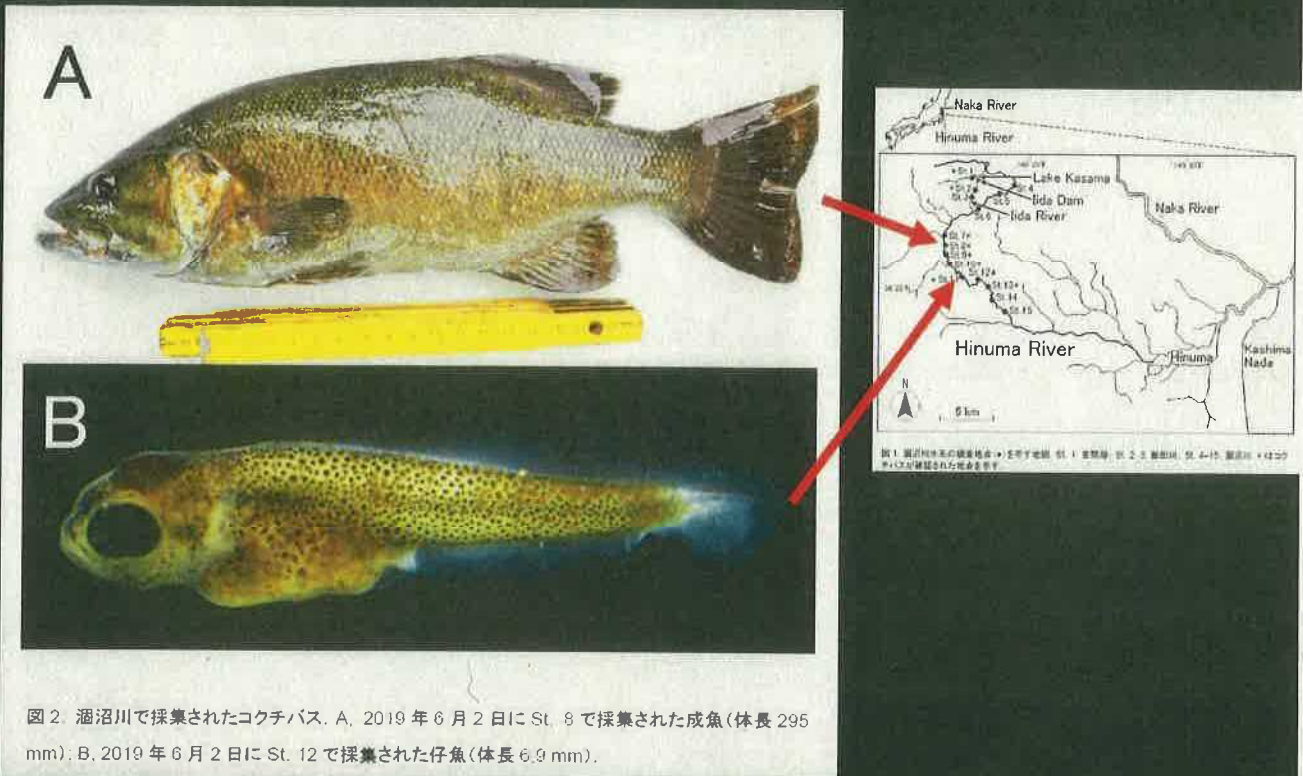


図 2 涸沼川で採集されたコクチバス。A, 2019年6月2日にSt. 8で採集された成魚(体長295 mm); B, 2019年6月2日にSt. 12で採集された仔魚(体長6.9 mm)。

出典: 木村ほか(2021)ラムサール条約登録湿地「涸沼」に流入する涸沼川におけるコクチバスの侵入と再生産

## 涸沼川におけるコクチバスの定着

- ・ 笠間湖に生息するコクチバスが飯田川を介して涸沼川に生息域を拡大したと考えられる
- ・ 産卵床とその周辺で仔魚が確認されたことから、再生産していると考えられる
- ・ 水系に沿って分布を拡大した場合、絶滅危惧種や水産有用種を含む生物に多大な影響を及ぼし、復元が困難になる可能性

・ 涸沼川におけるコクチバス  
- 茨城大学による調査結果 -

・ 久慈川におけるコクチバス  
- 内水支による分布調査結果 -

## 久慈川コクチバス分布調査

### 調査日

2020年～2021年にかけて  
計9回（5月～12月）

### 調査点

久慈川本流

最上流：福島県矢祭橋

最下流：落合橋

里川 繰舟橋

★コクチバスは障害物近くに  
集まるため、消波ブロック帯  
等がある地点を選択





# 久慈川コクチバス分布調査

## 方法

主にシュノーケリングによる目視

+ 投網やさで網による補助的な採集



目視調査の様子

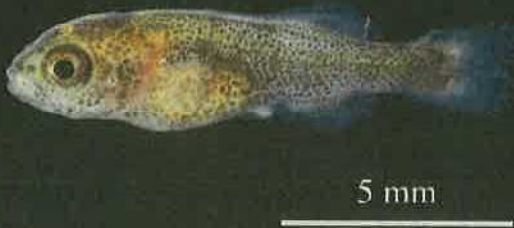


消波ブロック帯 (水中)



消波ブロック帯 (ここでは成魚の群れを確認)

## 調査結果



親の保護下から離れて間もない仔魚と産卵床 (辰ノ口橋)



消波ブロックの隙間で群れる幼魚



消波ブロックの周辺を泳ぐ成魚の群れ

## 調査結果



- ・ 舟生地先～落合橋のおもに中・下流域で生息を確認
- ・ 舟生橋より上流では確認されなかった
- ・ 消波ブロック帯があり水深がやや深い場所で多くのコクチバスが生息していた

◀ 調査地点とコクチバス確認の有無  
 黒丸：確認された地点  
 白丸：確認されなかった地点

## 調査結果まとめ

- ・ 少なくとも舟生地先までコクチバスが分布しており、それより上流では確認されなかった
- ・ 産卵床や仔魚も確認され、すでに繁殖・定着している



コクチバスは魚食性が強く、在来種への食害が懸念される  
 (アユはもちろん、サケ稚魚の捕食例も)  
 違法放流が未だある現状、他の河川へ広がる可能性

→ 生息状況の継続的なモニタリングと、適切な対策が必要

# まとめ 河川におけるコクチバス

- ・「外来生物法」で禁止された後も、違法な放流により全国的に分布が拡大している
- ・分布拡大は茨城県でも同様で、近年では久慈川や涸沼川で定着が確認された
- ・魚食性が強く、繁殖力が高く、流水に適応することから、河川の在来魚類への悪影響が懸念される
- ・県内における生息状況について継続的なモニタリングと、適切な対策が必要

# おわりに

令和2年6月8日

内水面支場 News! **久慈川でコクチバスの仔魚を確認**

令和2年5月29日 河口から約2.8km上流にて





採集されたコクチバス仔魚の概要	
採集日	令和2年5月29日
場所	常陸大宮市長ノ口遊先の久慈川
全長	9.7~12.3 mm
採集尾数	11

令和2年5月29日に、久慈川でコクチバスの仔魚(しぎょ)を確認しました。当該試験場では、全長約16cmの若い個体を確認していますが(内水面支場News!「久慈川でコクチバスを採集・確認」平成29年10月31日)、今回新たにふ化後数日しか経っていないサイズ(全長約1cm)の仔魚が確認されたことから、残念ながら久慈川でコクチバスが繁殖していると考えられます。

コクチバスは50cmほどに成長し、同属のオクチバスよりも低水温や流れの強い場所に生息できるため、アユなどの在来種への影響が懸念されます。また、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)」により、放流や飼育が禁止されています。川や湖への放流は絶対にやめましょう。

お問い合わせ 茨城県水産試験場内水面支場内水面資源部 TEL 0299-55-0324(直通)

令和3年6月18日

内水面支場 News! **コクチバス(特定外来生物)の産卵床を久慈川で多数確認**

個体数増加、在来生物への食害が懸念






令和3年4月23日、久慈川にてコクチバスの産卵床を多数確認しました。本種は雄が卵と孵化した仔魚を守る習性があり、繁殖力が非常に強いことが知られています。水産試験場内水面支場では昨年、同じ地点で仔魚を確認しましたが、産卵床および卵を今回初めて確認し、確実に繁殖してしまっていることが明らかとなりました。

コクチバスは流水環境にも生息できる魚食性の強い外来種で、外来生物法により特定外来生物として指定され、放流や飼育が禁止されています。県内においてもアユなどの在来種への食害が懸念されるため、当場では久慈川漁業協同組合と協力し、調査・駆除活動を進めてまいります。

(内水面資源部 外山 太一郎)

お問い合わせ 茨城県水産試験場内水面支場内水面資源部 TEL 0299-55-0324(直通)

外来魚情報は内水面支場News!等で発信していきます  
(内水支ホームページでご覧いただけます)